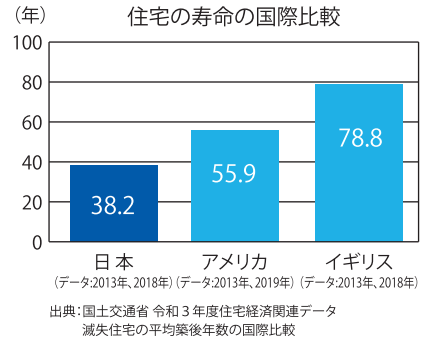


住環境領域の価値創造ストーリー (HS事業)

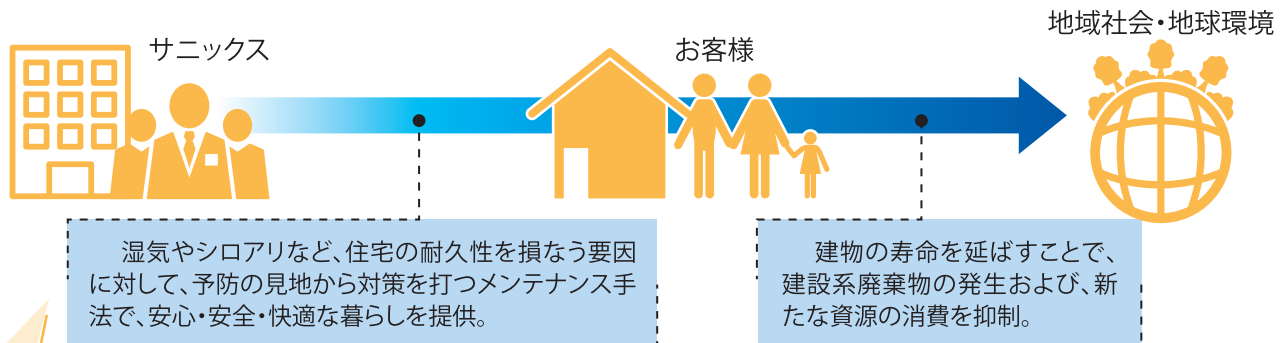


日本の住宅の寿命(取り壊される住宅の築後平均年数)は40年足らずと、欧米と比べてかなり短命です。湿気からくる木材の腐朽やシロアリの被害は、住まいの寿命を縮める要因の一つです。

私たちは、被害に遭ってから対策するのが一般的だった創業当初から、予防的見地による住宅メンテナンスの必要性・重要性を啓蒙してきました。それから約半世紀、いまや住宅もストックの時代です。これからも、施工数80万軒以上の実績と経験をベースに、お客様の快適な暮らしと、住宅の資産価値の維持に取り組んでまいります。



価値創造モデル(提供する価値)



主な商品・サービス <ホーム・サニテーション(HS)事業>

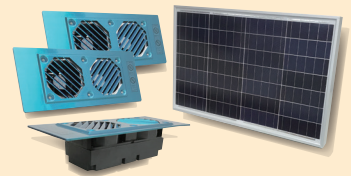
シロアリ防除システム

シロアリの習性を熟知したスタッフが、予防から駆除まで、適切に対処。豊富な経験と実績で培われた専門技術とノウハウ、万全のアフターサービスにより、大切なマイホームをシロアリの被害から守ります。



床下・天井裏換気システム

太陽光を利用した床下・天井裏換気扇が、床下・天井裏の湿気を追い出し、風の通り道をつくります。換気効果を高める拡散ファンや床下調湿材もとりそろえ、心地よい暮らしを実現するとともに、住まいの耐久性を高めます。



基礎補修工事

基礎コンクリート表面に、アラミド繊維シートをエポキシ樹脂で貼り付け、繊維強化プラスチック(FRP)を形成することで、基礎のひび割れを補修するとともに、劣化進行の抑制に寄与します。



家屋補強システム

床下、天井裏の主要結合部を金物で補強することにより、家屋の耐震性・耐久性を向上させるサンニクス独自のシステム。大掛かりな外壁工事を行わず、工期短縮を実現しました。



住まいのリフォーム

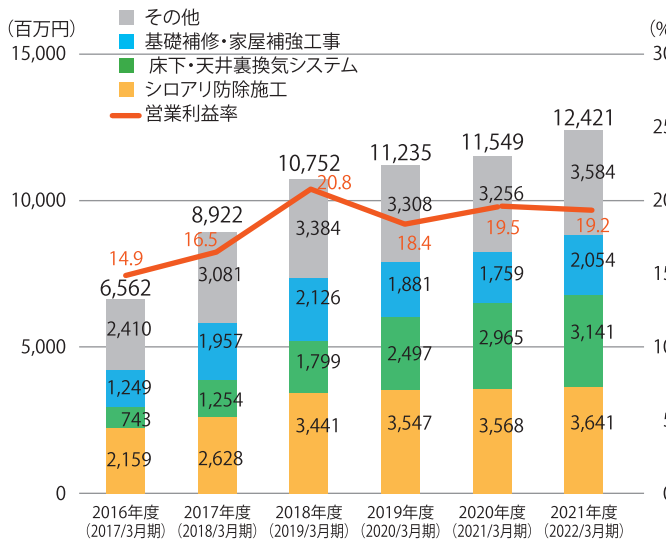
水周りの改善やバリアフリー化、外壁・屋根・クロス等のリフレッシュ、耐震改修工事など、ライフスタイルやご要望に合わせた快適リフォームをご提供します。

■ 実績

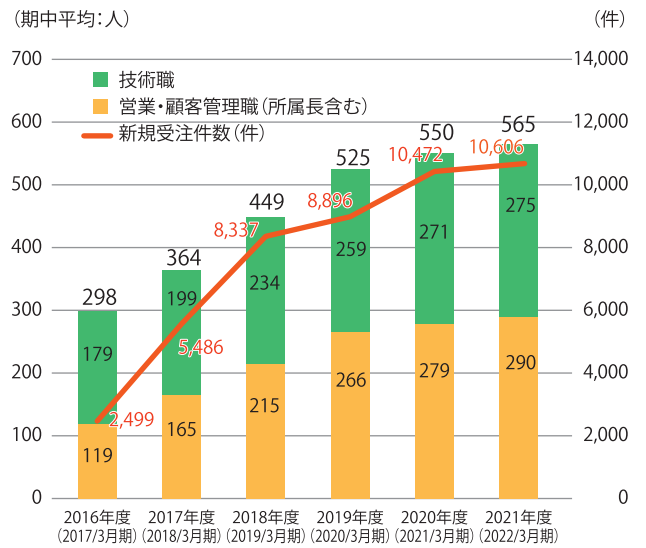
(単位:百万円)

				中期経営計画対象期間				
	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	対2018年度差異	
	実績	実績	実績	実績	実績	実績	増減	年平均増減率
売上高	6,562	8,922	10,752	11,235	11,549	12,421	+1,668	+4.9%
売上総利益 (売上高総利益率)	3,285 50.1%	4,947 55.4%	6,371 59.3%	6,746 60.1%	7,083 61.3%	7,667 61.7%	+1,295	+6.4%
営業利益 (売上高営業利益率)	979 14.9%	1,471 16.5%	2,231 20.8%	2,061 18.4%	2,248 19.5%	2,382 19.2%	+150	+2.2%

■ 商品別実績・営業利益率



■ 人員数・シロアリ消毒新規受注件数



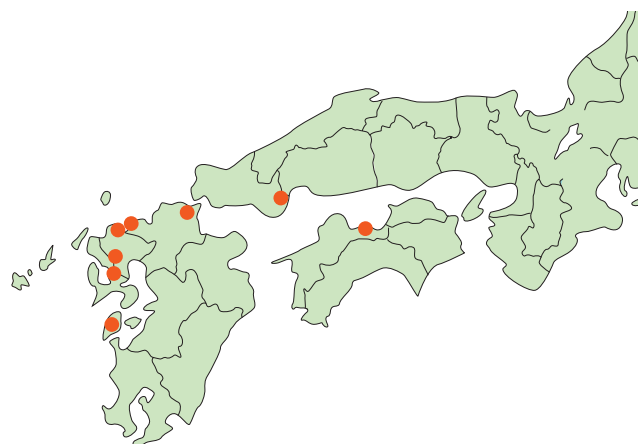
Topic

新規出店情報 ~ 3年間で、新店舗 8カ所を開設 ~

HS事業部では、顧客サービスの充実と営業効率(生産性)の向上を目的として、積極的な出店を行っています。2019年度から2021年度においては、8店舗を開設しました。既存事業の基盤を固めつつ、顧客数の拡大を図ってまいります。

■ 新設店舗 (2019年4月~2021年3月)

2019年 4月開設	唐津営業所(佐賀県)
2020年 2月開設	大村営業所(長崎県)
2021年 1月開設	岩国営業所(山口県)
2021年 5月開設	天草営業所(熊本県)
2021年 5月開設	新居浜営業所(愛媛県)
2021年 9月開設	武雄営業所(佐賀県)
2021年 11月開設	八幡営業所(福岡県)
2021年 12月開設	福岡西営業所(福岡県)



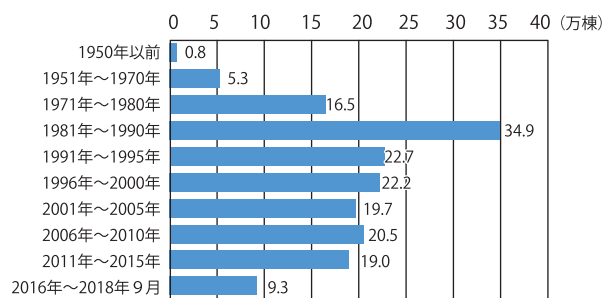
住環境領域の価値創造ストーリー (ES事業)



ビル・マンションから、食品工場、レストラン、ホテル、病院等々、「居住空間」にとどまらず、人が集い、働き、暮らす空間を対象に、衛生管理から設備維持保全まで、幅広く対応する事業部門です。

衛生検査・診断、食中毒対策、水質管理、給排水管の保全対策、有害生物の防除など、予防医学(未然に防ぐという思想)の見地から、トータルサニテーションを推進します。

全国の共同住宅の建築時期



平成30年住宅・土地統計調査(総務省統計局)を加工して作成

価値創造モデル(提供する価値)



主な商品・サービス <エスタブリッシュメント・サニテーション(ES)事業>

給排水設備の保全対策

給排水設備メンテナンスの効率的一元管理を実践。主力商品である防錆装置などにより、配管内のサビの発生・進行抑制による配管の長寿命化や、スケール・油汚れの除去・付着抑制によるトラブルの解決を図ります。

マイナス帯電水生成装置(防錆装置)



内視鏡による給排水管内部の検査

ビル・マンションのメンテナンス

水回りの衛生管理、屋上の防水処理、外壁の塗装・洗浄・補修など、トータルに管理します。

屋上防水処理



有害生物の防除



害虫防除施工

高度な専門技術により、ゴキブリやダニ、ハエ、カ、ネズミなどの害虫・害獣防除、害鳥侵入防止施工を行い、病原菌の媒体となる有害生物をシャットアウトします。

HACCPに沿った衛生管理サポート

飲食店や食品工場など、食品を扱う事業者には、HACCP(衛生管理手法)に沿った衛生管理が義務付けられています。専門的視点で、衛生管理計画の作成から運用までサポート。定期的な衛生点検および、その結果に基づく改善指導も行います。



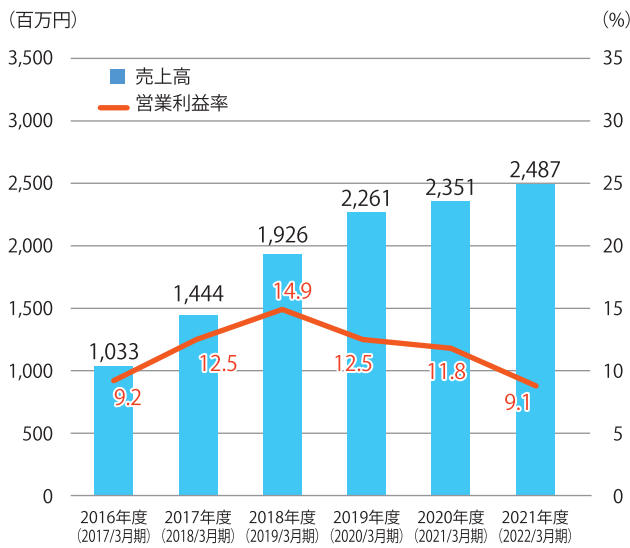
ATP拭き取り検査(清浄度の確認)

■ 実績

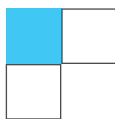
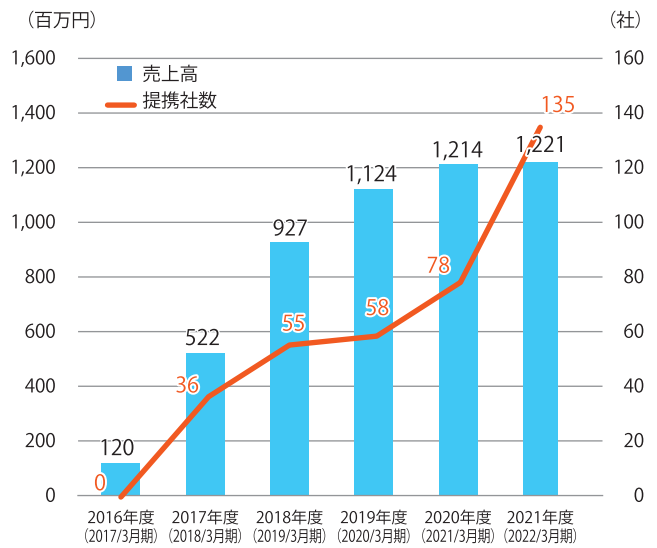
(単位:百万円)

				中期経営計画対象期間			対2018年度差異	
	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	増減	年平均増減率
売上高	1,033	1,444	1,926	2,261	2,351	2,487	+560	+8.9%
売上総利益 (売上高総利益率)	410 39.7%	689 47.7%	993 51.6%	1,188 52.6%	1,279 54.4%	1,328 53.4%	+335	+10.2%
営業利益 (売上高営業利益率)	94 9.2%	179 12.5%	287 14.9%	281 12.5%	276 11.8%	227 9.1%	△59	△7.5%

■ 売上高・営業利益率



■ ドールマン・ショック(防錆装置)売上高と提携社数



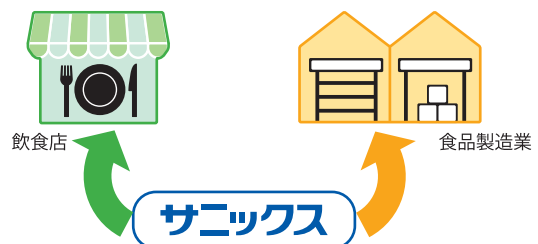
Topic

HACCP(ハサップ)に沿った衛生管理サポートを本格開始～導入から運用まで～

2021年4月、ES事業部で、HACCPに沿った衛生管理導入支援サービスを、本格開始しました。

HACCPとは、衛生管理を「見える化」する、国際的な食品衛生管理手法。食品衛生法の改正により、2021年6月1日より、食品を扱う事業者には、HACCPに沿った衛生管理が義務化されています。

当社サービスは、専門的視点から、お客様(食品を扱う事業者様)の衛生管理計画の作成・運用がスムーズに進むよう、サポートするものです。定期的に衛生点検・運用状況の確認を実施し、現場に即した改善方法の検討、指導・アドバイスをを行います。



衛生計画作成サポート。業種に合わせたオリジナルの書式をご提供し、なるべく手間をかけずに作成いただけるよう努めています。



衛生点検にて、清浄度のチェック。衛生状況を数値化します。

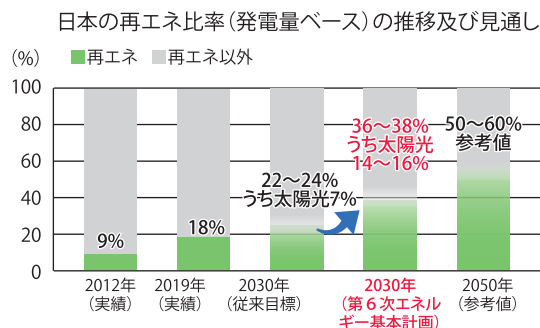


エネルギー領域の価値創造ストーリー (SE事業)



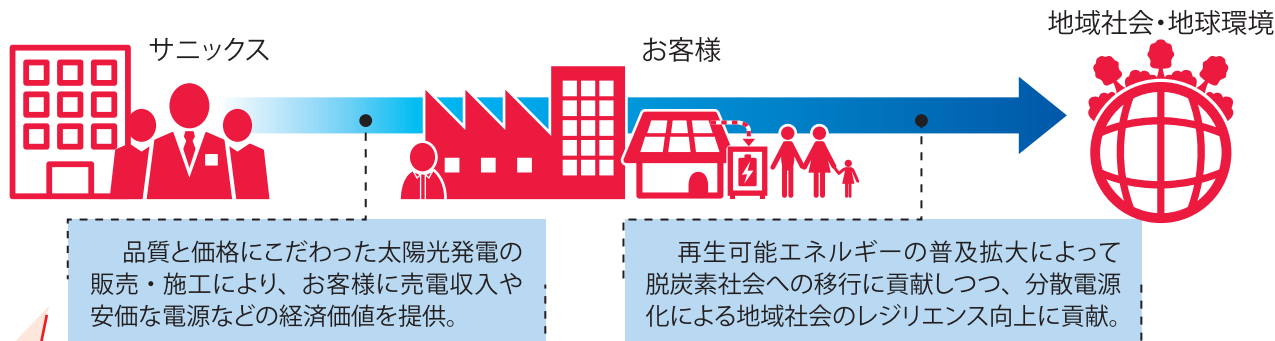
再生可能エネルギーの普及拡大は、社会的な重要課題です。太陽光発電をもっと身近なエネルギー源とすべく、国土の限られた日本に適した分散型太陽光発電によって、再生可能エネルギーの普及拡大を図ります。

特長は、製造から販売、施工、メンテナンスまでを一貫して自社グループで行う、トータルサービス。いいものをより安く、スピーディーに提供し、太陽光発電の普及を加速させます。なお、太陽光発電普及に必須となる蓄電池の販売にも注力します。



経済産業省「エネルギー基本計画の概要」をもとに当社作成

価値創造モデル(提供する価値)



主な商品・サービス <ソーラー・エンジニアリング(SE)事業>

事業用太陽光発電システム

工場の屋根やビルの屋上などの有効利用を促進。自家消費型システムを中心に、太陽光発電による資産管理、コスト(電気代)削減、災害対策、環境経営をお手伝い。ご提案から設計、施工、アフターメンテナンスまで、トータルに提供します。



住宅用太陽光発電システム

太陽光発電の普及を目指して、できるだけ価格を抑えて提供し、環境にも家計にも優しい生活を実現します。



O & M (メンテナンス)

WEBモニタリング(遠隔監視)から、法により義務化されている保守・点検まで。お客様の太陽光発電所の安心稼働をサポートします。



蓄電システム

自家消費型太陽光発電のニーズが高まるなか、蓄電池の導入による電気の柔軟な使い方をご提案しています。

メガソーラー事業

産学官相互協力によるメガソーラー「サンニクスソーラーパークむなかた」(約2MW・2013年6月28日〜)。設計から施工、発電事業まで手がけ、ここで得られる経験やデータを太陽光発電の販売・施工活動に生かすとともに、学校などの見学も受け入れています。

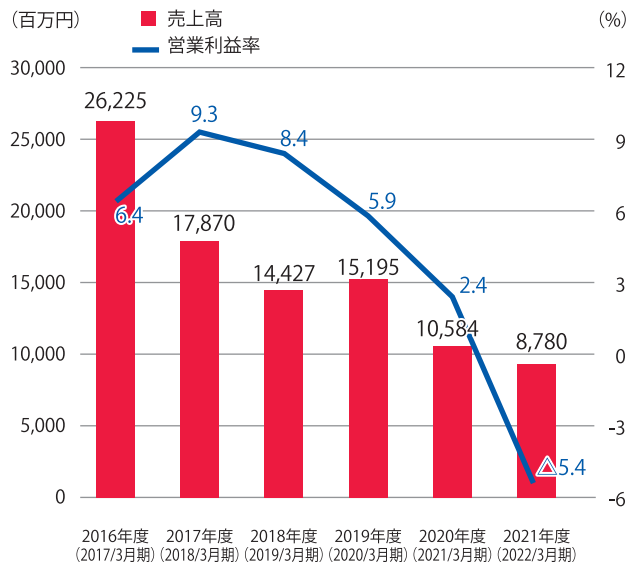


■ 実績

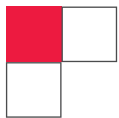
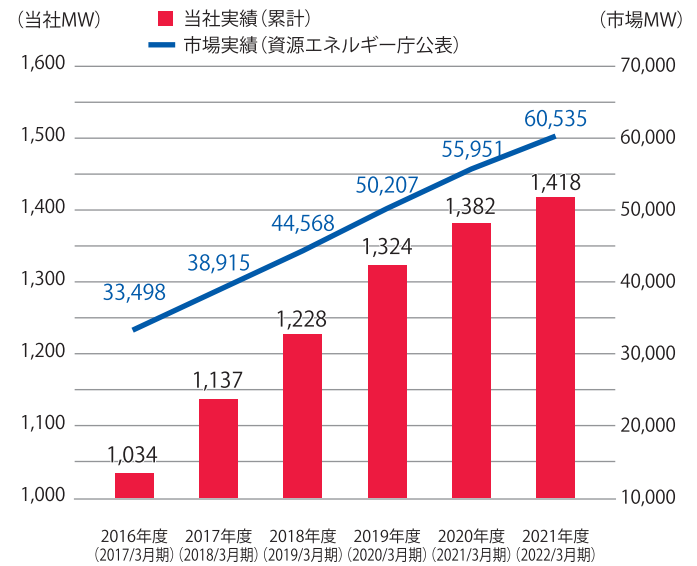
(単位:百万円)

	2016年度	2017年度	2018年度	中期経営計画対象期間			対2018年度差異	
	実績	実績	実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	増減	年平均増減率
売上高	26,225	17,870	14,427	15,195	10,584	8,780	△5,647	△15.3%
売上総利益 (売上高総利益率)	7,423 28.3%	5,562 31.1%	4,687 32.5%	4,308 28.4%	3,148 29.8%	1,941 22.1%	△2,745	△25.5%
営業利益 (売上高営業利益率)	1,669 6.4%	1,668 9.3%	1,204 8.4%	901 5.9%	250 2.4%	△473 —	△1,678	△173.2%

■ 売上高・営業利益率



■ 太陽光発電システム導入量(累計)



Topic

自社施設に、自家消費型太陽光発電を導入～脱炭素社会の実現に向けて～

当社は、自社施設への太陽光発電導入を進めています。2021年度は、資源開発工場(廃プラスチックの燃料化工場)のうち8工場および、研修センターに、自家消費型の太陽光発電を導入しました。

太陽光発電事業においては、製造から、販売、施工、メンテナンスまでの一貫サービスを強みとしています。自社施設への太陽光発電についても、自社による設計・施工にて設置しました。

2021年度 資源開発工場への導入事例 () 内の日付は運転開始日

①笠岡工場(岡山県) 80.32kW (2021.5.11)	②姫路工場(姫路市) 74.59kW (2021.11.8)	③日野工場(滋賀県) 74.40kW (2021.6.1)	④岡崎工場(愛知県) 99.84kW (2021.9.16)
⑤太田工場(群馬県) 125.62kW (2021.7.14)	⑥新潟工場(新潟県) 231.00kW (2022.2.7)	⑦ひたちなか工場(茨城県) 60.00kW (2021.8.27)	⑧袖ヶ浦工場(千葉県) 75.31kW (2021.7.15)

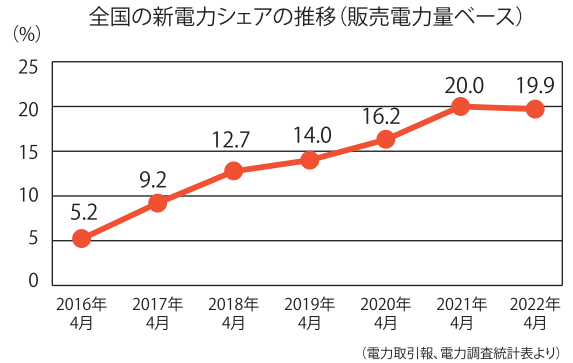
8工場による効果(年間)
 ▼自家消費 約651,617kWh
 ▼CO₂排出量削減 約341.8t-CO₂
 ※当社シミュレーション値。

エネルギー領域の価値創造ストーリー (E B 事業)

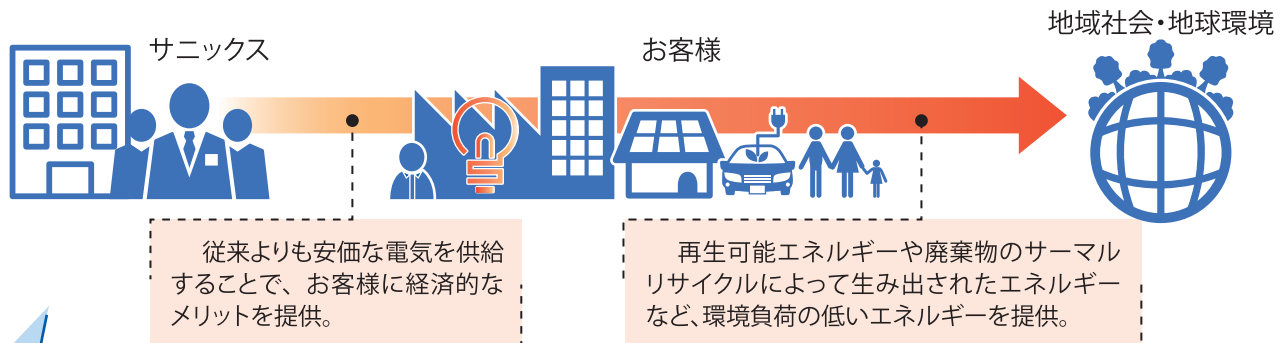


エネルギー新時代、脱炭素社会の実現に向けて、省エネ、創エネ、蓄エネ、そして非化石エネルギーの選択など、エネルギーとの向き合い方が多様化しています。また、2016年の電力小売自由化を経て、「電力会社は選ぶ時代」が定着してきました。

新電力事業(電力小売)を中心に、太陽光発電事業をはじめとする、他事業との親和性を生かして、多様化する時代のニーズに応じてまいります。



価値創造モデル(提供する価値)

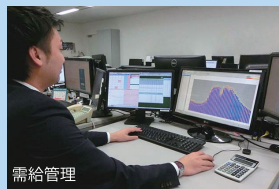


主な商品・サービス <エネルギー(E B)事業>

電力小売

自社で販売・施工した太陽光発電および、グループ会社で運営するリサイクル発電を基盤とするベース電源を有することを強みに、これらに他の仕入先を加えて組み合わせることで、コストダウンを図っています。

※登録小売電気事業者登録番号: A 0057



なるべくお安く電気を提供するため、電源調達・需給管理・企画提案・営業活動を一貫して社内人材で行っています。

【電源構成(電力の調達先)】

太陽光発電(FIT電気)

自社で施工した太陽光発電所(お客様)の電力を買い取っています。



自社グループ発電所

子会社㈱サニックスエナジーが運営する苫小牧発電所は、プラスチックのリサイクル燃料を専焼とする火力発電所です。

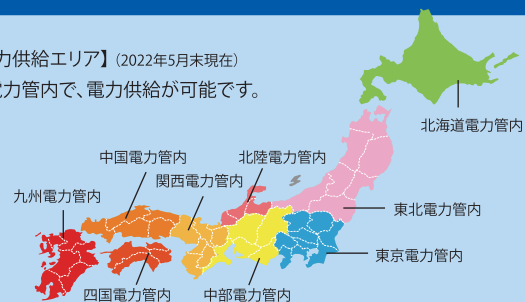


JEPXその他

当社は、日本卸電力取引所(JEPX)の会員です。JEPX、電力会社(旧一般電気事業者)および提携発電所から調達しています。



【電力供給エリア】(2022年5月末現在)
9電力管内で、電力供給が可能です。



エネルギー事業開発

再生可能エネルギーの自家消費や蓄電池を活用した「分散型エネルギーシステム」に代表される、次世代のエネルギーシステムの構築を目指します。

第三者所有型太陽光発電*の普及にも注力しています。

※第三者所有型太陽光発電:事業者が住宅の屋根に太陽光パネルを設置し、電力供給サービスを行うもの。

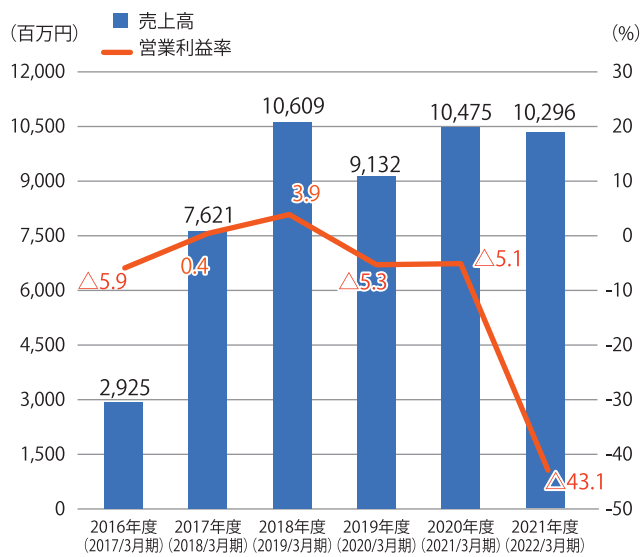
■ 実績

(単位:百万円)

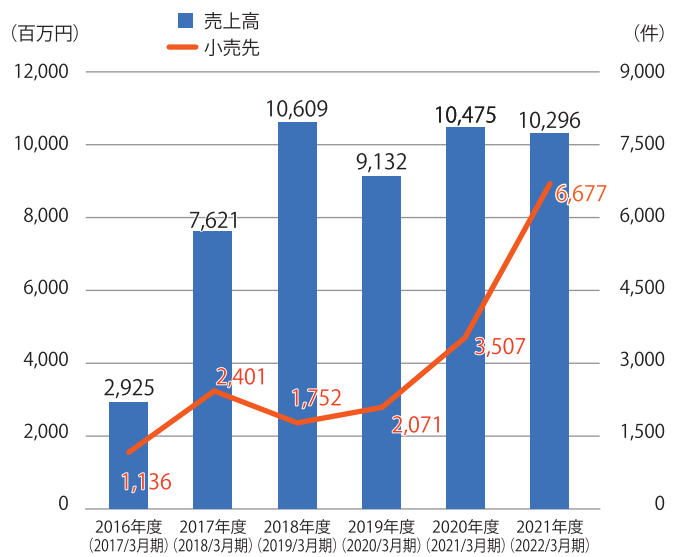
				中期経営計画対象期間					
	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	対2018年度差異 増減	年平均増減率	
売上高	2,925	7,621	10,609	9,132	10,475	10,296	△313	△0.9%	
売上総利益 (売上高売上総利益率)	84 2.9%	208 2.7%	616 5.8%	△71 —	103 1.0%	△3,801 —	△4,418	△283.3%	
営業利益 (売上高営業利益率)	△171 —	32 0.4%	412 3.9%	△485 —	△529 —	△4,435 —	△4,847	△320.7%	

※セグメント間の内部売上を含みます。

■ 売上高・営業利益率



■ 売上高と小売先件数



Topic

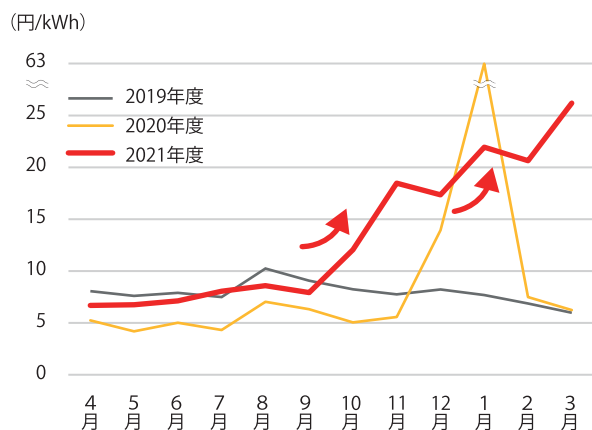
市場環境の激変を受け、事業構造をシフト～成長志向から機能面強化へ～

中期経営計画(2019～2021年)においては、新電力事業(電力小売)を成長事業と位置づけ、収益の拡大を目指して、取り組んでまいりました。

しかしながら、2021年度、冬期における電力需要の増加に加え、福島県沖地震(2022年3月)の影響により電力供給が逼迫、さらにはロシア・ウクライナ情勢による世界的なエネルギー価格の高騰もあり、電力の市場価格が高騰し、電力調達コストが大きく増加する事態となりました。

これを受けて、事業の位置づけ・方針の転換を図りました。市場リスクを最小限に抑える事業構造へとシフトし、売上拡大による成長志向ではなく、機能面の強化による他事業との相乗効果の創出を目指します。

JEPX(スポット市場)月間平均価格単価推移



※JEPXの「スポット市場インデックス」資料をもとに当社にて加工。JEPX(スポット市場)価格の月間平均価格単価推移(システムプライス(30分単位の1日48コマ)の月間単純平均)を記載。

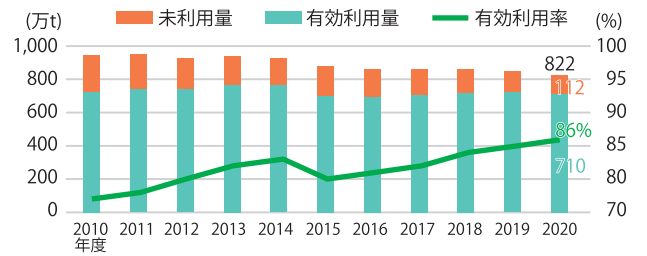
資源循環領域の価値創造ストーリー (E R D (環境資源開発) 事業)



地球規模で環境保護が求められるいま、産業廃棄物の適正処理・リサイクルは、重要な社会課題です。

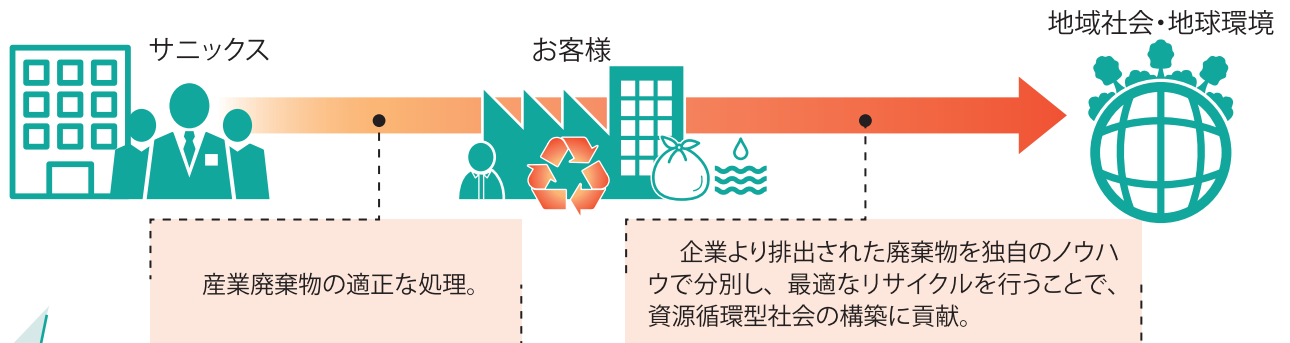
サニックスグループは、廃プラスチックの燃料化リサイクルや、食品工場等から排出される有機廃液の浄化など、次世代の地球環境を考慮した事業を通じ、循環型社会の構築を図ります。「静脈産業」の一員として、地球環境と産業発展の調和を目指してまいります。

全国の廃プラスチックの有効利用状況



『2020年 プラスチック製品の生産・廃棄・再資源化・処理処分状況』
(一般社団法人プラスチック循環利用協会)

価値創造モデル (提供する価値)



主な商品・サービス <環境資源開発 (E R D) 事業>

廃プラスチックの燃料化

産業廃棄物系プラスチックの燃料化を目的とした工場(プラスチック資源開発工場)を、全国各地に15工場展開。大きさや形がさまざまな廃プラスチックを細かく破碎することにより、石油・石炭などの代替燃料として活用するサーマルリサイクルを推進します。



プラスチック資源開発工場



プラスチック燃料のストックヤード

資源循環型発電システム

プラスチック資源開発工場で燃料化したプラスチックを、発電施設のエネルギー源として利用。石炭と比べて、発熱量が高く、CO₂排出量や焼却灰発生量が少なく済むことから、環境負荷が低く、付加価値の高い電気を供給します(次ページ参照)。



サニックスエナジー 苫小牧発電所



最終処分場(株式会社C&R)

廃液の浄化処理・リサイクル

外食産業の店舗や食品工場、その他雑廃水ピットなどから排出される有機廃液などを、大量に受け入れる体制を整えています。一連の処理工程により、高濃度の汚濁成分を99%以上除去する能力を有しています。また、油分や、脱水污泥の燃料化リサイクルも推進しています。



ひびき工場(有機廃液処理工場)



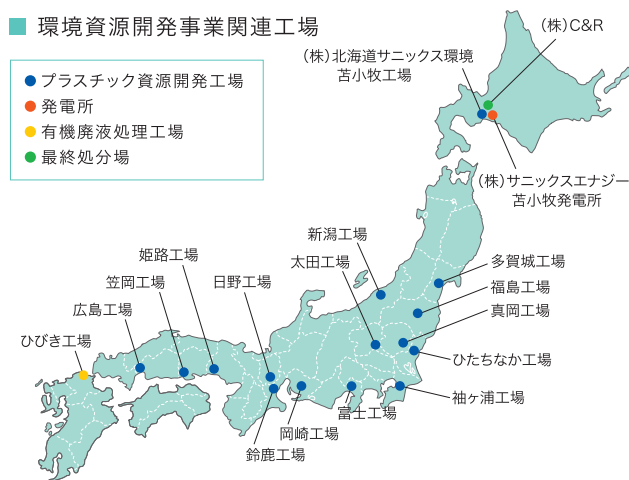
廃プラスチックからリサイクルエネルギー 「資源循環型発電システム」

産業廃棄物の処理は、社会的な重要課題です。サニックスグループは、時代の要請に応え、1994年に産業廃棄物処理事業に進出。その運営過程で、プラスチックの燃焼カロリーの高さに注目し、それまで単純焼却・埋立処分されていたプラスチックをエネルギーとして再利用する「資源循環型発電」を展開するに至りました。

現在、全国15カ所の工場で、製造工場などから排出される廃プラスチックを燃料化加工し、サニックスエナジー 苫小牧発電所(北海道・サニックス子会社/2003年竣工)等で、発電用燃料として使用。エネルギーとして再生しています。

なお、電気の「非化石価値」を証書として取り引きされる「非化石価値取引市場」において、2020年度より、すべての非化石電源について、取り引き対象とされるようになりました。これに伴って、苫小牧発電所で発電した電気も、「非F I T非化石証書」が発行されることになり、非化石電気の環境価値そのものを取り引きしたり、電気とセットにして非化石電気を取り引きしたりしています。

プラスチック専焼の発電所は他に類を見ず、2003年の苫小牧発電所竣工以来、さまざまな課題をクリアし、現在に至ります。サニックスグループは、当ビジネスモデルにより、資源循環型社会の実現に貢献してまいります。



～廃プラスチックの回収・燃料化から発電まで～ 資源循環型発電システム



回収した廃プラスチックを確認。150mm以下に破砕します。
※徹底した管理体制で、有毒なダイオキシンを発生させる塩化ビニールを含むものと、燃料となるプラスチックを分別します。



破砕したプラスチックを圧縮、梱包しラッピングします。



プラスチック燃料を、ストックヤードへ運びます。



資源循環型社会の構築に貢献します。

廃プラスチックの有効利用を促進します。

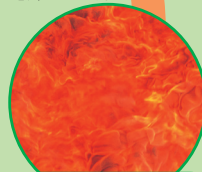
化石燃料の消費を抑制

CO₂フリー電力による脱炭素社会への貢献

最終処分場の残余年数を延ばす



プラスチック燃料 1kgが、電球(60W) 1個を約40時間点灯させる電気になります。



ボイラーに投入し発生した高温高圧の蒸気で蒸気タービンを回転させ発電します。

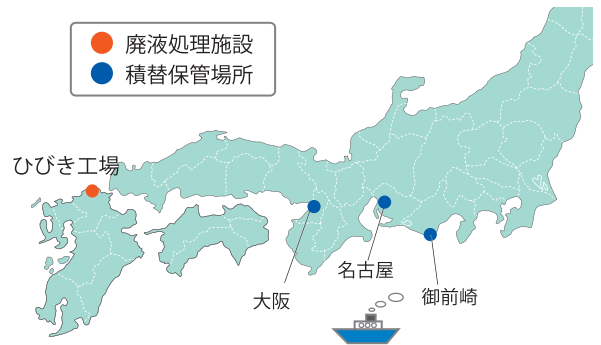


30mm程度に整粒加工し発電用の燃料となります。

微生物などによる廃液浄化処理、油分や汚泥のリサイクルも

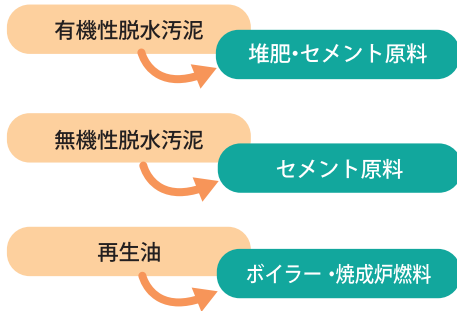
資源循環型発電事業(プラスチックの燃料化および当該燃料による発電)と並ぶ、もう一つの資源循環事業として、廃液の浄化処理に取り組んでいます。

廃液処理工場、ひびき工場(福岡県北九州市/2000年稼働開始)は、廃液のみを処理する施設として、国内で最大規模。食品工場から排出される有機廃液や、その他工場から排出される無機廃液などを、1日あたり1,300m³処理できます。船舶による大量受け入れ、貯留タンク4,800m³による短期間での受け入れに対応しています。



※船舶と積替保管は、弊社の協力会社が行っています。

リサイクル=資源循環を第一に考え、 工程発生物を利用



さらに、浄化処理にとどまらず、廃液に含まれる油分や汚泥の再生・再利用を推進しています。資源の有効活用はもとより、受け入れ廃液の拡充、汚泥などの最終処分費の抑制に寄与するものです。

2018年より、厨房廃液などに含まれる油分を濃縮した再生油を製造・販売。当再生油(製品名=「再生油Bio」)は、「令和3年度北九州エコプレミアム」に選定されました。

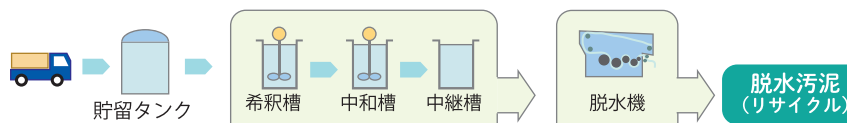
また、2020年度には、脱水処理後に残る汚泥の燃料化実証試験を開始しています。



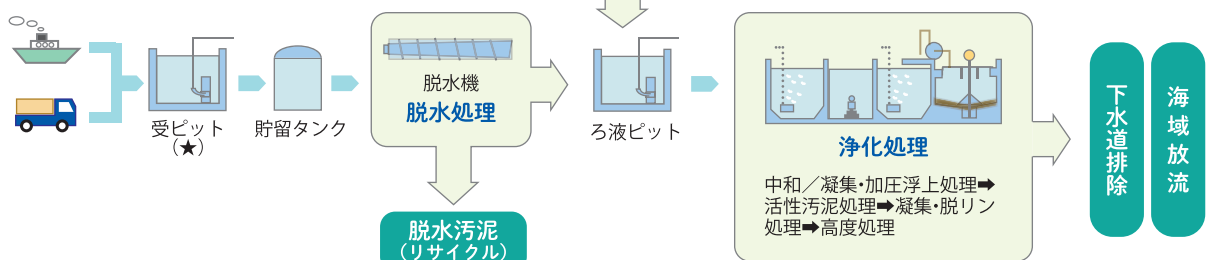
環境負荷が低い製品・サービスを、北九州市が選定する「北九州エコプレミアム」。「再生油Bio」は、中でも高く評価され、「いち押しプレミアム」に選定されました。(2021年11月18日、選定書贈呈式、北橋北九州市長=左と当社社長)。

廃液処理・リサイクルフロー

特別管理産業廃棄物 (強酸・強アルカリ)

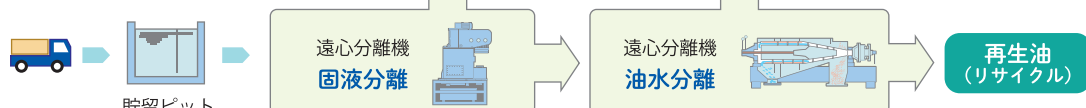


産業廃棄物 (汚泥・廃酸・廃アルカリ・動植物性残渣)



廃液の種類は多岐にわたり、多種の成分が含まれます。処理行程前に、性状分析を行い、確実・適正な処理を行います。

再生油生産 (廃油・汚泥)



産業廃棄物 受ピット (★) へ

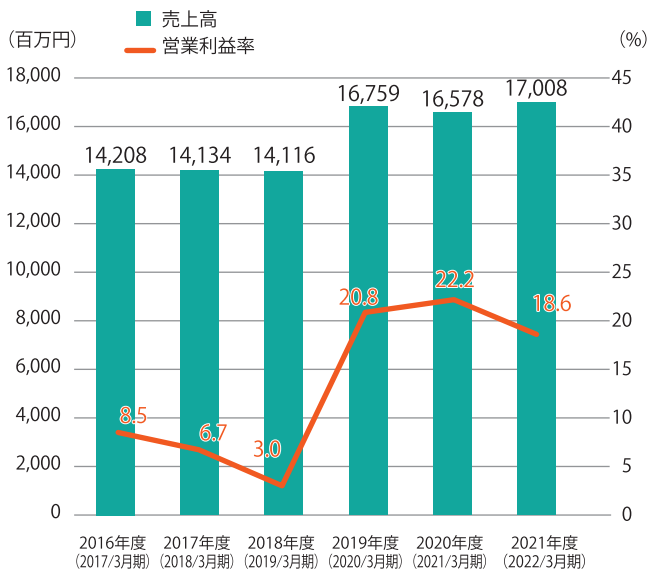
■ 実績

(単位:百万円)

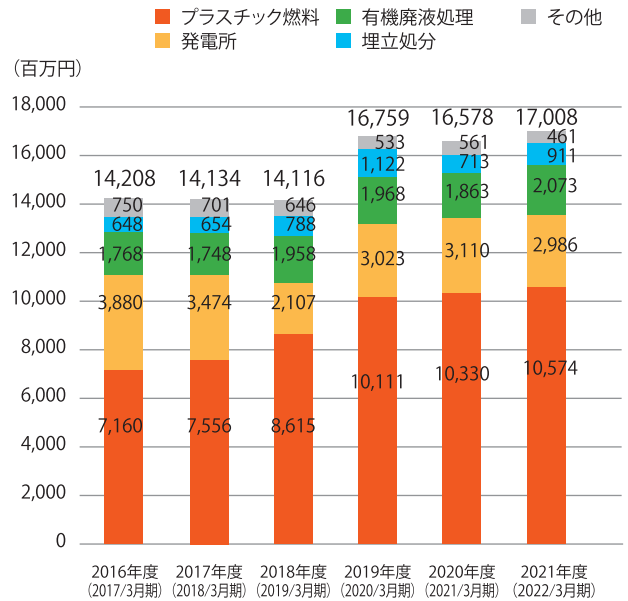
				中期経営計画対象期間			対2018年度差異	
	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	増減	年平均増減率
売上高	14,208	14,134	14,116	16,759	16,578	17,008	+2,891	+6.3%
売上総利益 (売上高売上総利益率)	2,939 20.7%	2,637 18.7%	2,160 15.3%	5,384 32.1%	5,538 33.4%	4,957 29.2%	+2,797	+31.9%
営業利益 (売上高営業利益率)	1,200 8.5%	940 6.7%	423 3.0%	3,483 20.8%	3,673 22.2%	3,158 18.6%	+2,734	+95.3%

※セグメント間の内部売上を含みます。

■ 売上高・営業利益率



■ 事業別売上高



Topic

廃棄業務一元管理システム「SANIX system」サービス提供開始

2022年4月より、廃棄物に関する業務を一元的に管理できるクラウド型システム「SANIX system」の販売を開始しました。

年間約12,000事業場にのぼる廃棄物処理の実績・経験をベースに監修し、お客様に必要な機能を搭載。廃棄物の回収依頼・処理状況の管理から、データ利用、コンプライアンスまで、適正で効率的な業務遂行、課題解決をサポートします。

■ SANIX systemで実現できること

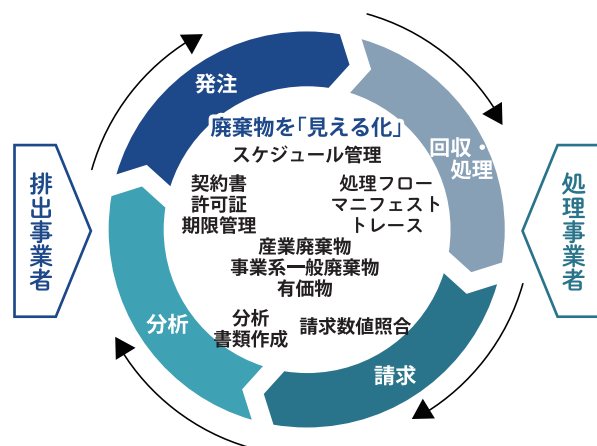
コンプライアンスの強化
(廃棄物処理法準拠)

廃棄物関連業務の省力化・効率化

「見える化」による課題抽出・改善

コスト適正化、収集運搬頻度や処分方法の適正化によるCO₂削減、分別による資源化の推進 など。

【システム概要・導入メリットのイメージ図】



排出企業と処理業者をつなぎ、
廃棄物におけるプロセス全体を管理

トピックス：VPP実証事業への参画、6年目に突入

世界的規模で脱炭素化に向けた動きが本格化するなか、サニックスグループは、社会課題解決に貢献する技術革新や新たなサービスの構築を推進しています。その一つが、経済産業省の補助事業である、バーチャルパワープラント(VPP)実証事業への参画です。当事業は、2016年度から年度単位で実施されており、サニックスグループは、2017年度以降、継続して参画。6年目となる2022年度、「令和4年度 蓄電池等の分散型エネルギーリソースを活用した次世代技術構築実証事業」にて、実証事業を進めています。

VPPとは、工場や家庭の太陽光発電や蓄電池などをIoT技術で束ね制御することにより、一つの発電所のように機能させる仕組みです。これにより、電力供給システムの課題を解決し、経済的な電力システムの構築や再生可能エネルギーの導入拡大が可能となります。サニックスグループは、再生可能エネルギーの普及に向けて、VPP技術の社会実装に向けた実証を継続してまいります。

ゼロエミチャレンジ企業リスト登録



サニックスグループのVPPに関する取り組みは、2021年10月、「ゼロエミチャレンジ企業リスト」に登録されました。「ゼロエミ・チャレンジ」は、経済産業省が日本経済団体連合会やNEDOと連携して、2050年カーボンニュートラルの実現に向けたイノベーションに挑戦する企業をリスト化し、国内外の投資家などに活用可能な情報を提供するプロジェクトです。

▼ゼロエミチャレンジ企業リスト(経済産業省ホームページ)

https://www.meti.go.jp/policy/energy_environment/global_warming/zero-emission_challenge/index_zeroemi.html



VPPの実現で、再生可能エネルギーを無駄なく活用可能に

VPPで実現できることの一つに、再生エネルギーの有効活用があります。太陽光や風力といった再生可能エネルギーは、天候によって出力が変動するという性質があるため、設備の導入が増えた場合、発電量が消費量を上回る時間帯が生じ、この時間帯の需給バランスを維持するため、太陽光発電などの出力を抑制(出力制御)する必要があるのが現状です。VPPによってこの時間帯に需要が生み出されれば、太陽光発電などの出力を制御することなく、有効に活用できるようになります。これは、太陽光発電の普及拡大の後押しにもつながるものです。

■VPPによる需給バランス調整イメージ

